

ドノウレンジャー

ドノウレンジャーという商品名の面白いものに出会った。水を吸って膨らむ土嚢である。先日、販路開拓のアドバイスを求められて見に行った。開発したのは、熊本市河内の(株)河内スチール。この会社は、もともと建設業をしていたが、社名はそのままに商売替えをした。

<http://www.donouranger.cleans.jp/>

ドノウレンジャーは、麻袋の中に、砂、桧のカンナクズ、デンプン、炭、消臭菌、園芸用の土の保水材を混ぜて詰め込んだもの。乾燥重量は4.5kg。水に浸けると4,5分でパンパンに膨らんで20数kgの重さになる。一旦水を吸うと、地面に放置しても水が洩れない。麻袋の中でデンプンが膨らみ、保水材が水を抱え込むので、押ししても、踏みつけても、水が飛び出さない。プヨプヨした物質が、袋の中に閉じ込められた状態になる。

中身の砂は、比重を出すための材料である。当然のことながら、水と同じ比重では、土嚢は流されてしまう。桧のカンナクズは、消臭、殺菌効果がある。炭も消臭効果がある。水を吸った後のデンプンは、時間が経つと臭いが出るそうで、それを防止するために炭や消臭菌を混ぜてある。一旦使用した後は、花壇などの土として、そのまま使うことができる。材料が天然資源であり、害になるものは入っていない。そのうち自然に分解される。良く考えた商品だ。

都市型の水害では、短時間に水があふれ、地下街や店舗に水が流れ込む。実際には、水が出てしまえば、土嚢を積む暇などないだろう。そもそも、土嚢が身近にない。自衛隊員のようにスコップで土を袋に入れ土嚢を作る技術もないし、まちの中には都合よく土なんてない。お年寄りや子どもは、重いものは運べない。その点、軽くてコンパクトなドノウレンジャーは、かなりのスグレモノである。ネーミングも、最初は少し首をひねったが、ちょうどよい。この商品は、時間をかけて市場シェアを拡大していくだろう。社長も必至で営業をしている。

新しいモノや仕組みを考えるのは面白いし、やれば何かしら出来てしまう。しかし、出来たもの売ったり広めたりするのは難しい。売れなければ基本的に意味が無い。

地域づくり、まちおこしも同じである。計画は出来ても実行が伴わないことがある。画餅に終わったり、実行されても勢いが足りなかったりする。行政によるまちづくり支援、特に小学校区などの小さな単位を対象にした支援は、概ね、まず初年度の計画づくりで50万円まで、続く3年間の活動費として合計100万円程度を補助。その後は自助努力で活動を発展させてください、というものだ。基本的にそれでよいが、問題は、作られる計画の良し悪しである。さすがに最近は3S(酒、食材、賞品)を補助金で賄うような計画は減ってきたが、油断するとすぐにそっちに流れてしまう。行政の支援策やコンサルの関わり方も改善すべき点がある。もらった金の使い方の上手下手には、金を出した人の力量・態度がそのまま反映される。行政やコンサルには、住民の活動が竜頭蛇尾になることもどこか最初から容認したような甘さがあり、それが住民に伝染する。村上ファンドの村上世彰氏の父親には学ぶべきものがある。

実は今、ニワトリを主人公にした絵本を作っている。100万円ほどの投資である。頑張って売って、元を取り返さねば大変だ。まちづくりのコンサルとしては、この程度のことをしていれば、刀の切れ味が鈍くなるのを防げるような気がする。(1冊千円の予定! 買ってね!)